

平成 28 年度

盛岡社会福祉専門学校

# 自己点検・評価報告書

学校法人コアトレース

平成 29 年 5 月 26 日

## 目次①（盛岡社会福祉専門学校 自己点検・評価報告書）

### 基準1 教育理念・目的・育成人材像等

1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	1
1-2	学校の特色はなにか	〃
1-3	学校の将来構想を抱いているか	2

### 基準2 学校運営

2-4	運営方針は定められているか	〃
2-5	事業計画は定められているか	〃
2-6	運営組織は、機能的に整備されているか	3

### 基準3 教育活動

3-7	教育目標、育成人材像は、明確に定められているか	〃
3-8	カリキュラムの編成方針は、教育方針に則っているか	〃
3-9	カリキュラムは体系的に編成されているか	〃
3-10	カリキュラムの実施・評価体制はあるか	4
3-11	授業評価の実施・評価体制はあるか	〃
3-12	育成目標に向け要件を備えた教員を確保しているか	〃
3-13	教員の専門性は確保されているか	〃
3-14	教員の資質向上はなされているか	〃
3-15	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5
3-16	資格取得に向けての取組みは確立されているか	〃
3-17	欠番	

## 目次②（盛岡社会福祉専門学校 自己点検・評価報告書）

### 基準4 教育成果

4-18	就職率の向上が図られているか	5
4-19	資格取得の向上が図られているか	〃
4-20	退学率の低減が図られているか	6
4-21	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	〃

### 基準5 生徒支援

5-22	就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	〃
5-23	生徒相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	〃
5-24	生徒の経済的側面に関する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	7
5-25	生徒の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	〃
5-26	課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	〃
5-27	生徒寮等、生徒の生活環境への支援は行われているか	〃
5-28	保護者と適切に連携しているか	〃
5-29	卒業生への支援体制はあるか	8

### 基準6 教育環境

6-30	施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか	〃
6-31	学外実習、インターンシップ、海外（国内）研修等について十分な教育体制を整備しているか	〃
6-32	防災に対する整備はされているか	〃

### 基準7 生徒募集と受入

7-33	生徒募集活動は、適正に行われているか	9
7-34	志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	〃
7-35	就職・資格取得実績等の教育成果は正確に伝えられているか	〃
7-36	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	〃

## 目次③ (盛岡社会福祉専門学校 自己点検・評価報告書)

### 基準 8 財 務

- 8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 8-38 予算は計画に従って妥当に執行されているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //
- 8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //

### 基準 9 法令等の遵守

- 9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 9-41 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //
- 9-42 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //
- 9-43 自己点検・自己評価結果の公開はしているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //

### 基準 10 社会貢献

- 10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 10-45 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //
- 10-46 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //
- 10-47 生徒のボランティア活動の状況を把握しているか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ //

# 平成28年度 盛岡社会福祉専門学校 自己点検・評価報告書

評価基準： 5. 完璧 4. 優れている 3. 普通 2. やや劣っている 1. 劣っている

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像等

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか . . . . . 評価 5

理念・目的及び育成人材像については、学校法人コアトレース法人本部から示された「運営指針」及び「運営指針（図解）」に明確に定められており、学則にも明記され、学校案内などにも反映している。

学園の創設理念「心をこめて 心をつくして 心を伝える」の基、「入れる・育てる・送り出す」の教育活動を基軸に、かけがえない園児・生徒一人ひとりを大切にして、その可能性を伸長し、「豊かな心の涵養と確かな技術の育成」に努めている。

【学園（学校）の教育方針】 人材育成、六つのキーワード…「感謝」「高潔」「貢献」「向上心」「探究心」「自立」

●学ぶことができる自由に感謝し、常に向上心と探究心を持って学習に取り組み、自主・自立の精神を涵養する。

●自他を敬愛し、相和し、相互に協力し合いながら、高潔な心を養い、文化の創造と発展に貢献できる園児・生徒を育成する。

1-2 学校の特色はなにか . . . . . 評価 5

前述の「教育理念・目的・育成人材像等」で挙げた『心の教育』が最大の特色である。また、少人数制の特徴を活かし、学園理念に則り、生徒ひとり一人の心に寄り添った思いやりあふれるきめ細かな指導が特色である。平成 15 年に医療事務・歯科助手科が開校、平成 26 年度生から医療ビジネス学科に改称し、医療秘書・医療事務・歯科医療に必要な知識・技術を習得するための 3 コース制を導入した。また、開校以来岩手県歯科医師会との教育提携校として、実習・就職等で多大な支援を受けている。就職、実習を通して地域や関係機関から教育実績を高く評価され、厚い信頼を受けている。特色の明確化及び各方面への浸透を図り、適宜見直しながらさらに魅力ある特色作りに取り組んでいきたい。

1-3 学校の将来構想を抱いているか . . . . . 評価 4

中期の将来構想は、平成 21 年度に「第一次中期構想基本計画（新事業構想 5 ヶ年計画）」を構築し、平成 23 年度から「詳細計」に則り新事業を遂行した。平成 25 年度には、校舎の改築・実習室の改修等、全面的に教育環境を整備した。また、平成 26 年度生から医療ビジネス学科として 3 コース制を導入するなど大幅な学科改編した。また平成 27 年度にはカリキュラムの改編を行い、各業界で必要とされるスキルの実践的な教育の充実を図れるよう取り組んでいる。

教育界を取り巻く環境は非常に厳しく、少子化に伴う入生徒の減少を鑑み、将来に向けて学科改編、定員、カリキュラムの等の見直しを進めている。

『学園(学校)の次世代への継承』を教職員全員の最大テーマとしており、本校の維持・存続・発展のため、中期スパンでの「第二次中期構想基本計画（5 ヶ年計画）」の立案に向けての検討を進めている。

**基準 2 学校運営**

2-4 運営方針は定められているか . . . . . 評価 5

運営方針は、学園の運営指針・事業計画に示されており、教育方針や育成すべき人物像が明示されている。課題・問題点等が判明した場合には学園及び学校全体で協議の上改善に努めている。平成 28 年度も運営方針に従い教育活動を遂行した。

詳細：平成 28 年度事業計画・同事業報告に掲載

2-5 事業計画は定められているか . . . . . 評価 5

事業計画は、前年度の検証・評価を踏まえ、前年度末の理事会・評議員会に附され決定を見ている。事業計画に沿って学園及び学校の教育活動を展開した。事業については、建学の理念、教育目標、将来構想に基づき、単年度の重点目標を定め、概ね事業計画のとおり執行された。

2-6 運営組織は、機能的に整備されているか . . . . . 評価 5

運営組織は、「寄附行為」及び「職制及び業務分掌規則」「校務分掌」等に明確に定められ、機能的に整備されている。また、単年度の重点目標に沿って分掌ごとの目標を策定し、業務を遂行している。運営に関わる業務の効率化に向け、見直すべき点があった場合には、修正を図っていきたい。

**基準3 教育活動**

3-7 教育目標、育成人材像は、明確に定められているか . . . . . 評価 5

教育目標、育成人材像については、明確に定められている。基準 1 でも示したとおり、学校法人コアトレース本部から示された「運営指針」及び「運営指針図解」に則り、学則にも明記され、学校案内などに反映している。

3-8 カリキュラムの編成方針は、教育方針に則っているか . . . . . 評価 5

平成 26 年度には、医療ビジネス学科は新カリキュラムがスタートしている。これにより、「3 コース制」を導入し、それぞれの希望に応じた専門領域の学びを深められるようになった。「3 コース制」に関しては、将来の希望職種に即戦力として業務を遂行できるよう、実習を実践的なものとして体系的に編成している。

少人数で行うことができるという本校の利点を活かし、福祉・医療業界が求める人材の育成のため実践的な職業教育の視点に立った教育内容の改良を今後も重ねていきたいと思料している。

3-9 カリキュラムは体系的に編成されているか . . . . . 評価 4

カリキュラムは、養成施設としての規定等を遵守し、学則に定める目的を達成するために業界のニーズを踏まえて体系的に学ぶことができるよう編成されている。また定期的に見直しも行われている。

3-10 カリキュラムの実施・評価体制はあるか . . . . . 評価 4

業界のニーズを踏まえて教務主任（学科長）が中心となり、カリキュラムの作成・見直し等の検証を行っている。実習先や卒業生の就職先への訪問により得た有益な情報から検証を行い、提供評価の結果に基づいて改編を検討している。今後も評価・検証を重ね、より充実した教育課程を構築していきたい。

3-11 授業評価の実施・評価体制はあるか . . . . . 評価 4

授業評価は、個別、学科別を実施しているが体系的には実施できなかった。教員の指導法、授業の満足度など細分化された項目のアンケートを実施した。アンケート結果を真摯に踏まえ、次期の授業に反映できるように改善を図り、質の向上と生徒の満足度を高められるよう授業評価体制の構築を図りたい。

学内研修については定期的実施し、教員の資質向上に向け取り組んでいる。今後は、内部での研究授業を強化し、授業評価体制の構築・制度化を図っていきたい。

3-12 育成目標に向け要件を備えた教員を確保しているか . . . . . 評価 5

育成目標の達成に向け、法令等を遵守し、設置基準に適合した教員及び要件を満たす講師を確保している。平成 28 年度末には、介護福祉科で急な退職者があったが、授業に支障の無いよう、教員要件を満たす人員を補充した。医療ビジネス学科では、常に医療現場での実務経験者や実績など考慮し、より適格な教員確保に努めている。

3-13 教員の専門性は確保されているか . . . . . 評価 4

設置基準を満たす教員及び講師の専門性は全て確保しており、恒常的に専門性を高めるよう研鑽している。

3-14 教員の資質向上はなされているか . . . . . 評価 4

教員の更なる資質及び指導力の向上を図ることを目的として学科内外の研修を受講している。体系化の面で改善の余地があり、今後さらに資質向上のための取組みを強化していきたい。平成 28 年度以降も能力開発・資質向上のため、研修の機会を増やし、体制を整備していく。



3-15 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか . . . . . 評価 5  
成績評価・単位認定の基準は、学則・学生便覧等に明確に記載されており全く問題はない。

3-16 資格取得に向けての取組みは確立されているか . . . . . 評価 4  
資格取得を意識した授業カリキュラムを編成し、授業内容と資格・検定試験の内容に合致させ、常に出題傾向を把握・分析し、課外授業、個別指導等で合格まで導くよう指導している。平成 28 年度は医療秘書検定などで 3 名の生徒が優秀賞を受賞するなど高い効果が見られる。また、常に合格率の向上めざし学科内での研鑽を深めている。

3-17 欠番

#### 基準 4 教育成果

4-18 就職率の向上が図られているか . . . . . 評価 5  
教育課程と同様、生活・進路指導に関わる教育内容も年々充実させている。特に就職率向上に向けての取組みは年々強化しており、その成果も十分に上がっている。未決定の生徒に対しては、担任が面談を行ない、未決定の要因を共に探り、早期就職に結びつけている。

介護福祉科の就職希望者は、開校以来 25 年連続で、就職率 100%を達成している。また、医療ビジネス学科の就職希望者は、平成 24 年度から 4 年連続で全員が正社員として就職を決定している。本人と保護者の希望が乖離している状況も散見されるため、今後もこれまで以上に保護者への連絡を密にして、理解と協力を得た上で、正社員率・就職率 100%を続けていきたい。

4-19 資格取得の向上が図られているか . . . . . 評価 4  
卒業時に全生徒が目標資格を取得できるよう、担任が中心として全教員が指導を実践し、その目標を達成していることが大きな特徴である。通常授業内で対策を強化し、課外授業等を実施し生徒の個々の能力に応じた組織的な指導体制に取り組んでいる。今後も出題範囲や出題傾向の把握に努め、効果的・実践的な指導に取り組みたい。

4-20 退学率の低減が図られているか . . . . . 評価 5

退学率低減のための取組みは年々強化している。悩みを抱える生徒に対しては、真摯に対応し改善策を導き出すよう努めている。多様化する生徒が増えている現在は、教育力の向上が求められている。今後も担任を中心としてきめ細やかな指導を実施したい。また、個別対応の充実を基軸にして、学校、生徒、保護者の情報共有化を深め、さらに密接な関係を構築し、退学率の減少に努めたい。

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか . . 評価 4

実習先訪問を通じて、卒業生の活躍及び評価を把握している。今後も、就職先等へのお礼訪問を増やし、同窓会との連携も強化して情報収集に努めていきたい。

さらに、ホームページ等を活用し動向調査を行っていく必要性も実感しており、今後の課題である。

## 基準5 生徒支援

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか 評価 5

就職指導に関しては、担任を中心とした生徒への支援体制がしっかりと整備されている。平成 28 年度も就職希望者全員が正社員として就職しており、確実に成果を挙げている。「学生支援センター」の有効活用が今後の大きな課題である。進学希望者がいる場合には、担任を中心に進学指導を個々に対応している。本年度は秋田県での看護師専門学校へ 1 名進学した。

5-23 生徒相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか . . 評価 4

セミナー室を設置し、担任を中心に個別相談に対応した学習支援を行っている。また学生就職応援ヤングハローワーク、ジョブカフェを活用し、就職に関する相談支援を行っている。日々の教育活動の中で担任が生徒一人ひとりの状況を把握し、教員間で必ず情報を共有している。また、保護者との連絡も密にしている。心に悩みを抱える生徒が飛躍的に増加し、その内容も複雑多岐にわたっていることから、今後も教職員の教育力向上と、相談機能の充実に努めていきたい。

- 5-24 生徒の経済的側面に関する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか 評価 4  
本学独自の奨学金を制定するなど生徒の経済的支援に努めている。また、公的奨学金制度についても有効に活用できるよう適宜生徒に説明している。しかしながら、経済的に支援を要する生徒は年々増加しており、さらに厳しい状況に陥ると思料されることから、今後は時代のニーズに即した奨学金制度の検討や、公的奨学金制度に関しての情報の収集に努めたい。
- 5-25 生徒の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか 評価 5  
健康管理に関する担当が組織化され、有資格者がその任にあたっている。学校保健法に基づいた健康診断を毎年 4 月に定期に実施しており、学科長及び担任が診断結果を把握しており、その情報を学校医と適切に共有している。
- 5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか 評価 3  
課外活動の面では、放課後・休日等、授業時間以外にも実習室を開放し、便宜を図っている。生徒の可能性をさらに伸ばすため、課外活動の新設、外部行事への参加、コンクール等への出場機会の増加、ボランティアの推奨等の支援体制を改善し、充実していきたい。
- 5-27 生徒寮等、生徒の生活環境への支援は行われているか . . . 評価 3  
生徒寮は無いが、随時アパート・マンション・下宿等の紹介を行っている。安価で環境が整っている所への入居が課題で、学生部を中心に情報を多く取得し有益情報を提供していきたい。
- 5-28 保護者と適切に連携しているか . . . . . 評価 4  
担任・保護者間の連絡を密にすることにより、保護者からの理解はほぼ得られていると思料される。適切な時期に保護者会を実施し、希望者には個別面談を行い連携は図られている。学校生活から就職に至るまで、指導過程を迅速・詳細に提供するなど、定期的に家庭への連絡ができるような体制を整備していきたい。また、授業参観や保護者会など、情報共有の場を増やすことも検討したい。

5-29 卒業生への支援体制はあるか . . . . . 評価 5

行事等で同窓会・卒業生としっかり連携している。卒業生に対する支援という面では、校内での相談はいつでも可能であることを伝えており、再就職の斡旋も行っている。そのため、頻繁に卒業生が来校し、様々な相談や情報交換を行っている。全体への支援が今後の課題で、職場訪問の機会を増やすことも検討し、同窓会との連携を深め、ホームページ、SNS等を活用することにより、卒業生への支援を強化していきたい。

**基準6 教育環境**

6-30 施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか 評価 5

新館新築・本館改修を中心とした施設・設備等の教育環境整備に着手し、平成 25 年度に、医療ビジネス学科においては普通教室・マナー実習室等が新設され教育環境が向上した。新しくなったマナー実習室を効果的に使用することにより、患者接遇・応対マナー実習など実習内容の幅も広がった。

6-31 学外実習、インターンシップ、海外（国内）研修等について十分な教育体制を整備しているか 評価 3

校外実習や宿泊研修の充実は図られている。県外文化研修においては従来の病院見学実習と合わせて最新の歯科機器・機材を導入している最先端名の歯科治療を展開している総合病院の見学など、研修内容が年々充実してきている。校外実習を拡充し生徒の職業観を更に伸長させることにより、就職後の離職率低下に繋げていきたい。海外研修は、検討はしているがその安全性、経済面等の問題があり、参加希望者も最低遂行人数に達せず、ここ数年実施を見送っている。

6-32 防災に対する整備はされているか . . . . . 評価 4

防災に関しては、「防火管理規定」「消防組織及び分掌表」等の規定を設け、自衛消防訓練を実施し対応している。しかし、2011 年（平成 23 年）年に発生した「東日本大震災」のような巨大地震等への対応についてはまだ十分とはいえない。今後、種々の災害に対する備えや啓もうに関して防災体制を見直し整備していきたい。また生徒の安全を第一に考え、訓練等の充実化を図り、教職員全員が生徒を安全に避難誘導できるよう徹底していきたい。

**基準 7 生徒募集と受入****7-33 生徒募集活動は、適正に行われているか . . . . . 評価 4**

生徒募集活動は、本学基本理念のキーワードである「高潔」に則り、誇大広告・宣伝等を一切することなく、一般社会の常識に沿って公正・公平に情報を提供し、公明正大な募集活動を展開した。少子化や企業による高卒求人数の増加などの影響により入学者の確保が厳しくなっている。学生部と教職員全員の連携を深め、真摯な募集活動を展開していきたい。また本校の魅力を十分にPRできるような方法を模索しながらHP、SNSの充実を図っていく。

今年もりしゃグレース・ヴィンテージを開催し、大好評で参加者が回数ごとに増加した。体験入学の充実、ボランティア活動への積極的参加、高校訪問やSNSの活用などあらゆる面での強化が必要となっている。今後も地域貢献や教育力の向上と併せて学校の特色と魅力をPRし適正な生徒募集を行っていきたい。

**7-34 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか . . . 評価 4**

志望者等の問い合わせや相談には、全職員が懇切丁寧に対応している。今後も、電話の取次ぎ時間のさらなる短縮を図り、相談者に不快な思いを抱かせることの無いよう、内部研修を実施し「心をこめた対応」に努めていきたい。また、ホームページやSNSは、非常に大きな情報発信手段であることを踏まえ、担当者を設置しブログを随時更新するなど最新の情報を提供できるよう務めた。またオープンキャンパス以外でも、学校見学、進学相談ができる体制を用意している。

**7-35 就職・資格取得実績等の教育成果は正確に伝えられているか 評価 4**

就職・資格取得実績等の教育成果は、過去から直近のデータを基に正確に伝えている。今後は、情報提供の内容をさらに吟味し、発信媒体についても検討を深め、多様な媒体の導入も考えていきたい。

**7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか . 評価 5**

入学選考は、厳正に実施し適正かつ公平な基準に基づき行われている。さらにより良い選考を行うため、入学試験内容の点数化をもっと明確にして、より公正な基準の下で可否を判定できるよう検討し適宜見直していきたい。

## 基準 8 財 務

### 8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか . . . 評価 2

平成 19 年に独立し、少額ではあるが平成 24 年度まで 5 年連続で施設拡充特定預金を備蓄することができた。各方面からは、「経営安定の礎が出来つつある」との評価をいただいている。これは、学園の経営方針である【経営の安定化と継承・発展のために三つの誓い】の一つである「慎ましやかで、堅実な経営」を全教職員が実践した結果であると思料している。

新事業の一環として行った校舎の新築・改築工事が平成 25 年度に竣工した。新事業に関わる借入金が生じたが、質素で堅実な経営で借入金を着実に返済していきたい。

「少子化」「補助金の減少」等、教育をとりまく社会情勢は、激しく変化してきており、私学経営を非常に厳しいものにしていく。私学のみならず、わが国の教育界は、従来の価値観のみでは対応しきれない時代が到来しており、先行き不透明な中で、中長期計画は策定しにくい状況にある。このような状況下において、学園の使命を果たしていくためには、社会における価値観の変化やニーズの多様化に対応する施策を着実にそして敏速に推進していくことが必要不可欠であり、学園の英知を結集して経営安定化への基盤を築いていきたい。

### 8-38 予算は計画に従って妥当に執行されているか . . . . . 評価 5

年度予算は、教育現場からヒアリングを行った上で立案され、理事会・評議員会で承認を受けている。予算は、一部の科目において予算外支出があり、項目変更等の補正予算が組まれるものの、事業計画に則り、適正に執行されている。過去 9 年間全く問題は生じていない。

### 8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか . . . . . 評価 5

学校の財務に関しては、教職員全員が質素を旨とし、ムリ・ムダ・ムラを省くなど、個々が出来る事を常に模索しながら、経営安定化を図るための努力を行っている。監査体制がしっかり機能しており、年 3～5 回実施される監査法人、内部監事による監査も適正に行われている。監査法人からは、若干の「勘定科目の変更」等を指摘される程度で、「適正に処理されている」旨の報告を受けている。

## 基準 9 法令等の遵守

### 9-40 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・ ・ 評価 5

法令、設置基準等の遵守については、教育基本法及び学校教育法、介護福祉士養成施設設置基準等の関係法令を遵守し、総じて適正な運営がなされている。また、「本学園設立の目的」にも明記されており、日頃から管理職を中心に呼びかけを行い、教職員の遵守に対する意識もかなり高いと思料する。今後も研修会等を重ね、研鑽を深め高い意識レベルを堅持したい。

### 9-41 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・ 評価 5

個人情報に関しては、生徒ひとり一人の尊厳を重視し、書面にて保護を誓約しており、厳重にかつ慎重に取り扱うよう、教職員全員に周知徹底を図っている。「個人情報の保護に関する規定」も整備されており、重要書類の管理は金庫で行い、書類の廃棄はシュレッダーを活用するなど注意を払っている。しかし、教職員個々の保護意識に頼る部分が大きく、保護意識に格差があるので、改善していきたい。また、業務の利便性と透明性を確保するため、内部の教職員ならば誰でもアクセスできる領域に個人情報を保存していたが、現在は学科内部の教員のみがアクセスできるように整備している。

### 9-42 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか 評価 5

自己点検・自己評価は、新法人移行当初の平成 19 年度から取組みを開始、法人本部長が関連セミナーや研修会に参加し、同年度末には、全教職員参加で研修会を開催、必要性・目的・意義等についての理解を深め、平成 21 年度から継続的かつ適切に実施している。年度末に点検・評価を実施し、新年度に向けて課題等を整理・改善し、問題点は改善し教育力の向上に役立てている。

### 9-43 自己点検・自己評価結果の公開はしているか ・ ・ ・ ・ ・ 評価 5

自己点検・自己評価結果は、ホームページ上で公開しており、問題は生じていない。

**基準 10 社会貢献****10-44 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・ 評価 5**

本校は、1991（平成 3）年の開校以来、25 年以上に渡る教育活動を続け、多くの卒業生を輩出している。その間、地域の福祉・医療施設、岩手県歯科医師会、盛岡市歯科医師会、岩手大学、盛岡大学、岩手県立大学、岩手医科大学等多くの関係諸団体、また地域の方々、業者等関係各位から大きな支援・協力を受けてきた。

医療ビジネス学科では生徒・教職員が一体となり、良き医療人、社会人になるため、日々「技術」と「心」の研鑽に努めている。また、本学園基本理念のキーワードである「貢献」に則り、社会貢献を特に推奨している。その一環として、平成 23 年度から、関係各位への感謝の気持ちを込め、幼稚園ボランティア、高齢者、障がい者福祉施設等にも可能な限り学外の行事にボランティアとして参加し、地域社会に貢献している。生徒にとっても、教職員にとっても非常に良い体験であり、慈愛の心や奉仕の心を培うことができた。貢献することの喜びが自信に繋がり、更なる研究や向上を目指す機会が与えられたことは今後益々、教育力に幅が広がると思料する。今後も様々な機会を通じ、地域の方々への感謝の気持ちを込め、地域貢献活動を継続的に行っていく。

**10-45 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか 評価 5**

学校資源を活用した生涯学習事業として、平成 28 年度も「もりしゃグレース」の一環である、中学生、高校生に対する「介護」「医療事務」に関わる啓蒙活動を展開し中学校、高校側からの評価も良好であった。

**10-46 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・ ・ ・ ・ ・ 評価 5**

生徒のボランティア活動は、人間教育、専門教育の一環として捉えており積極的に推進している。平成 28 年度も障害者施設で開催される行事や幼稚園行事など各種のボランティア活動に参加し、生徒全員が地域社会に貢献している。今後もさらに地域のニーズに合わせた発展的な活動につなげていく。

**10-47 生徒のボランティア活動の状況を把握しているか ・ ・ ・ ・ ・ 評価 5**

ボランティア活動には、生徒と教職員が一体となって参加しており、生徒のボランティア活動の状況はしっかりと把握している。平成 28 年度も積極的なボランティア活動を行うことにより、継続的に社会貢献の役割を果たしていきたい。